

国際ロータリー 第2660地区 ローターアクト 海外研修報告

ローターアクト委員会 委員長 **久保義誓** (茨木RC)
地区ローターアクト 代表 **徳永貴大**

本年度のローターアクトの海外研修は、11月1日～5日にインドネシアを訪問致しました。例年は一つの地区へ訪問するのですが、インドネシアは、ジャワ島より西を第3410地区、バリ島より東を第3420地区と定めており、本年度は、その2地区にまたがった交流をしてまいりました。

第2660地区の参加者は、ローターアクター 27名、ロータリアンが4名の総勢31名。3410地区は、ガバナーを含めた40名。第3420地区も40名と、のべ80人近くの現地ロータリアン、ローターアクターとの国際交流を図ることができました。

海外研修は、海外へ訪問することを目的にしているものではありません。今年度は下記の通り明確な目的を定め、その目的に重きを置いた活動を行いました。

- ①国際ロータリー第3410地区・第3420地区のローターアクトとの交流
- ②現地ローターアクトとの共同奉仕活動
- ③研修参加者は、安全で秩序ある団体行動を続ける為に、研修プログラムを精力的かつ主体的に消化し、参加者全員が有意義な海外体験を積み、今後における国際奉仕活動の学習を行う。

①に関しましては、想像以上に第2660地区のローターアクターから現地ローターアクターへ積極的にコミュニケーションを取りに行く姿が見受けられました。

②に関しましては、ジョグジャカルタでは、文化遺産でのクリーンハイク、現地の高校での植樹活動。バリでは、亀の保護を行いました。

③に関しましては、ローターアクト地区役員のもと、出発前に3回のオリエンテーションを行い、インドネシアについての事前学習や現地での企画を進め、また、現地へ行ってからも団体行動の中でそれぞれが役割を果たし、その中から多くのことを学び得たようです。

以上の3点を踏まえて、海外研修を日ごとに振り返りたいと思います。

1日目

関西国際空港にて結団式を行い、地区代表からの海外研修における意思表示が発表されました。そして、飛行機に乗る事7時間半、ジョグジャカルタへと到着。空港では現地のローターアクターに歓迎して頂き、そのまま夕食を一緒にとり交流を図りました。

2日目

現地のローターアクター達と共にボロブドゥール遺跡へと訪問し、世界文化遺産を観光しながらクリーンハイクを実施。

その後、現地の高校へと訪問し、学生たちと共に植樹プログラムを実施致しました。訪問した際には、学生達による伝統舞踊や現地の楽器を用いた歌で、今までに経験したことのない心温まるおもてなしを受けました。

その夜は、ウェルカムパーティー。パーティーは、現地ガバナーの挨拶より始まり、福家ガバナーよりの親書を代読、久保委員長挨拶、地区代表挨拶、地区ごとの活動報告やバナー交換を行いました。共に準備をしていたパフォーマンスを行った際には、会場が参加者の笑顔に包み込まれ、国際交流がしっかりと行われている事を感じ取れる懇親会でした。

3日目

名残惜しいですが、ジョグジャカルタのメンバーにお別れを告げ、バリのテンパサル空港へと出発致しました。2日目と同じく、到着後にバリのロータリアン、ローターアクター達とウェルカムパーティーを実施。こちらも終始笑いの絶えない懇親会になりました。その後、現地ローターアクターの案内でバリの街を楽しむこともできました。

後日、ウェルカムパーティーで行った、互いの地区の活動紹介がきっかけとなり、第2660地区が毎年行っている献血活動を、今後、第3410地区でも行うと聞いております。

4日目

早朝からベノアビーチに向かい、亀の保護活動を行い、お昼以降はケチャダンス等の伝統舞踊を現地ローターアクト達と共に楽しみました。その後、夕食を共にとった後、空港でバリのローターアクトと最後のお別れをし、日本へと帰国致しました。

このように、ハードスケジュールにも関わらず大きな事故もなく計画どおり海外研修を終えられ、ホッとしたとともに、先程申し上げた3つの目的を実行した参加ローターアクト達には大変感銘を受けました。

今後、この経験を基に第3410地区・第3420地区と

の国際交流が続くことこそ、本当の海外研修の意義だと私は思っております。そして、その交流を通し、海外研修の参加者たちがロータリー活動の本質に近づくことを願っております。

最後になりましたが、今年度の海外研修を一から計画し、実施したローターアクト地区役員の皆様、同行頂きました地区ローターアクト委員の皆様。また、インドネシア第3410地区・第3420地区の皆様。そして、この研修を支えてくださっている第2660地区の各ロータリークラブの皆様にご心から御礼申し上げ、海外研修の報告と致します。

